

3. 課題抽出と方向性

3-1. 現況からの課題抽出と方向性

以上の現状把握や利用者ニーズを整理し、課題を抽出し解決すべき課題を方向性として整理する。

表 3-1-1 現状・課題と方向性の整理

大項目	中項目	小項目	現状	課題	方向性	
1-1. 現状	概要		<ul style="list-style-type: none"> ●「水・花・緑が香る公園」をテーマに、池と町木のアカマツの生い茂る自然空間を活かした総合公園 ●新田開発の貴重な水源として湿地帯が溜池として整備された 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然景観の保全・管理を持続する必要がある ◆植栽のゾーニング(ルール)を整理する必要がある ◆歴史的な経緯を伝える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全・管理を持続するための指針とその体制 ➔ 歴史の情報発信と特徴付け 	
	施設		<ul style="list-style-type: none"> ●子どもから高齢者まで楽しめる施設を備えている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもから高齢者までが利用できる機能を維持する必要があるが一部に老朽化が見られ機能回復が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 現状機能の維持 	
	利用者		<ul style="list-style-type: none"> ●観光客入込数は、概ね 15,000 人前後で推移している ●主に町民が、朝夕の散歩、ジョギング、犬の散歩に利用している ●休日の日中は、町外からの家族連れの利用が多い傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日常的な利用施設で利用度の高い主な遊歩道の機能を維持する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 遊歩道の補修 	
	イベント		<ul style="list-style-type: none"> ●イベントは、年間数回の開催で十分に利用されていない ●区長会主催の植樹活動「未来に受け継ぐ公園づくり」が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆イベント等により利用者数の増加を図る必要がある ◆継続的な活動にしていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 新しい利用者層開拓の企画開発 ➔ 協働の公園づくり 	
	評価	町民要望	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもや高齢者が利用しやすい公園への要望が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもから高齢者までが利用できる機能を充実する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 遊び機能の充実(遊びからの学び) ➔ 癒しや憩い空間の充実 	
			大池公園の評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自然志向や静的な活動の利用者にとっては高評価であり、逆に充実した整備や動的な活動の利用者にとっては低評価になっていることが伺える 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然環境を保全し、利用できる施設を充実する必要がある ◆植栽のゾーニング(ルール)を整理する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全 ➔ レクリエーション機能の充実
1-2. 位置付け	まちづくり	都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> ●「本町を特徴づける水と緑の拠点」に位置付けられ、魅力を最大限発揮できるように、自然環境の保全を前提として、レクリエーション機能、コミュニティ機能、アメニティ機能の充実を図ることとされている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然環境を保全しつつ、公園機能の充実を図る必要がある ◆植栽のゾーニング(ルール)を整理する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全(自然からの学び) ➔ レクリエーション機能、コミュニティ機能、アメニティ機能の充実 	
	公園	緑の基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ●本町を代表する公園 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本町を代表する公園として、特徴を活かした整備を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境と景観の活用 	
	景観	都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> ●四季折々の景観を楽しむことができる住民の憩いの場 	<ul style="list-style-type: none"> ◆景観を活かした整備を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 景観の活用 	
1-3. 周辺施設	類似施設	南湖公園、翠ヶ丘公園	<ul style="list-style-type: none"> ●景観を活かした公園 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本町を代表する公園として、特徴的な整備を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然と景観の活用 	
		開成山公園、大槻公園	<ul style="list-style-type: none"> ●レクリエーション機能(充実した施設、子どもに特化した施設)が高い公園 			
1-4. 都市公園の利用動向	公園に対する要望	要望	<ul style="list-style-type: none"> ●「子どもを安心して遊ばせられる公園」「緑や花がきれいな公園」「ゆっくり休むことができる公園」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの遊び場の充実を図る必要がある ◆緑や花による魅力付けを図る必要がある ◆癒しや憩い空間の充実を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 遊び機能の充実(遊びからの学び) ➔ 緑や花による魅力付け ➔ 癒しや憩い空間の充実 	
		期待する役割	<ul style="list-style-type: none"> ●「快適で美しいまちづくりの視点」「運動、スポーツ、健康づくりの場」「子どもの遊び空間」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆景観保全を図り、健康増進や遊びの機能を充実する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 景観保全 ➔ 健康増進機能の充実 ➔ 遊び機能の充実(遊びからの学び) 	
2. 利用者ニーズ	利用特性		<ul style="list-style-type: none"> ●町内の高齢男性が一人で月 5 回以上、30～1 時間の利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者が固定化している 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 新たな利用者の掘り起こし 	
	魅力		<ul style="list-style-type: none"> ●緑豊かな自然環境、日本庭園、遊歩道、水辺の施設、景観、遊具 	<ul style="list-style-type: none"> ◆魅力要素の保全と活用を図る必要がある ◆植栽のゾーニング(ルール)を整理する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全(自然からの学び) ➔ 既存施設の充実 	
	改善点		<ul style="list-style-type: none"> ●トイレ・展望台、散策路、適切な維持管理・更新 	<ul style="list-style-type: none"> ◆老朽化した施設等の維持管理や更新を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 維持管理の促進 ➔ 老朽施設の更新 	
	必要な施設・機能		<ul style="list-style-type: none"> ●自然保全、子どもの遊び場、お金を落とす仕組み、カフェなどを含む休憩施設、サイン、適切な維持管理、イベント 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然保全、子どもの遊び場、休憩施設、サインを充実させる必要がある ◆植栽のゾーニング(ルール)を整理する必要がある ◆収益のある事業を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全(自然からの学び) ➔ 遊び機能の充実(遊びからの学び) ➔ 癒しや憩い空間の充実 ➔ サイン整備 ➔ コミュニティビジネスやカフェ 	
	利用者層毎の評価	現状満足層		<ul style="list-style-type: none"> ●ベンチ、遊歩道、トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ベンチ・遊歩道・トイレの維持管理・更新を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 維持管理の促進 ➔ 老朽施設の更新
		健康志向層		<ul style="list-style-type: none"> ●遊歩道、休憩施設 	<ul style="list-style-type: none"> ◆遊歩道・ベンチなどの維持管理・更新を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 維持管理の促進 ➔ 老朽施設の更新
		環境保全志向層		<ul style="list-style-type: none"> ●環境保全、水質改善 	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境保全、水質改善を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自然環境の保全(自然からの学び)
		親子連れ利用層		<ul style="list-style-type: none"> ●休憩施設(遊び場) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆遊び場に休憩施設を整備する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 遊び場の休憩機能の充実
景観志向層			<ul style="list-style-type: none"> ●日本庭園の景観 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本庭園の景観を保全・活用する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 日本庭園の保全・活用 	

また、利用者や町内外の大池公園に関心のある人材を活かし、イベントの開催を通じて『楽しい場所』、『癒しの場所』という価値を認識してもらい更なるリピーターの発掘も不可欠である。

3-2. 将来想定からの課題設定

前項の課題や方向性を踏まえて、将来に向けた課題を検討する。

○整備の優先順位の検討

- 将来の町民人口減少による利用者減や、潜在資源の開拓・発信による魅力を拡大する上で利用者増などのバランスを、費用をかけた効果がどの程度反映するか（費用対効果）でどう評価し判断していくべきか。
- 公園整備への公共投資が大きく期待できる時代ではない中でどのような優先順位を妥当と考えるか。

○利用の平準化の検討

- 利用者増による既存のリピーター利用者層と新規利用者との調整をどう図るか。
- 土日や夏期期間に集中している利用を平日や他の季節でどのように増加させるか。

○公園づくりの管理運営の検討

- 現在は、地域自治会管理と芸術グループNPO管理であり、区長会主催の花木植樹活動や地域奉仕団体「ゆう遊クラブ」主催の花植栽などの活動が実施されており、限られた維持管理予算の中で魅力を最大限発揮するために管理体制、植樹、植栽活動を発展させ、「本町を特徴づける水と緑の拠点公園」のレベルまで「町民協働の公園づくり」のロードマップを誰がどのようにマネジメントするか。

○大池公園の魅力を活かす

- 整備の有無に係らず、大池公園の認知度の向上、利用者の増加を見込む上でイベントの開催が重要となる。その際に、イベントごとにコンセプトを設定するのではなく、一貫したコンセプトを設定し、統一感を持ったイベントの開催をどのように実施するか。
- 大池公園の潜在的な魅力を統合できるコンセプトの軸は「池と松の特長を楽しめる景観」になる。周辺総合公園でも景観的な魅力は発信されているためそれらと差別化できる大池景観の魅力を発信できるか。

○大池公園の個性的な魅力を最大限引き出す利用プログラムづくり

- 大池公園の魅力を最大限発揮する組織体制づくりには時間がかかる。そのため魅力を活かす利用者の動機づけをどう育てるか。

○公園を舞台に収益性のある事業展開

- かつては、アカマツから松根油、薪、用材の採取など資源として活用されていた。活用促進や維持管理を推進していくためにも、コミュニティビジネスや収益性のある新たなビジネスモデルを展開できるか。

以上の将来想定テーマを踏まえて、以下の通り課題を設定する。

表 3-2-1 将来に向けた課題設定

	将来想定	検討条件	課題設定
優先順の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の人口減少が進む中で特定利用者が主になる。 ・広域利用の増加が進む中で多様なニーズが発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全や快適性でのニーズ対応が優先される。 ●B/C(費用対効果)を意識しながら順位を設定する。 	<p>→①利用要望の高い箇所の改善 特定利用者の利用ニーズに対応した整備</p>
平利用の進化	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は家族連れやイベント利用、平日はウォーキングなどの個人利用、遠足や茶会などのグループ利用が増加する。 ・夏期は夏休みの子どもの利用、春秋期は花見や紅葉、冬期は自然観察利用などが主になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土日と平日の利用層の違いの把握と団体利用層に対応したサービス水準の適用を検討する。 ●夏期、春秋期、冬期の利用層の違いの把握と利用層に対応したサービス水準の適用を検討する。 	<p>→②滞在性の高い場所の改善 当面の利用者確保の視点から平日利用層の安全や滞在性向上に対応した整備</p> <p>→③住民参加による公園づくり 利用者の関わりを深める公園づくり参加を通して、持続的な管理への参加につなげる参加型整備</p>
公園づくりの管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・第1段階では管理者や参加団体による協働管理運営に移行 ・第2段階では利用者や利用団体によるボランティア参加の協働管理運営 	<ul style="list-style-type: none"> ●相互の尊重と将来目標像の共有化を、汗を流す活動の中で見出していく。 ●ボランティアや企業CSR、農商工連携など多様な連携・協働の仕組みを実践し検証する。 	<p>→④社会実験による新たなニーズに対応した仮設的整備 新規利用者の拡大のために、イベントやソフト対策等で掘り起こしたニーズに対応した仮設的整備</p>
大池公園の魅力を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・既存イベントを一貫したコンセプトにより開催 ・住民参加型のイベントの開催をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大池公園の魅力を活かせるイベント内容などの検討をする。 ●利用者、住民が公園をつくるようなイベントを開催する。 	<p>→⑤“季節、昼夜”の時間軸を入れた大池公園の景観開発型整備 大池の季節景など魅力開発型の景観整備、景観利用をテーマに、大池公園づくり社会実験事業、教育・研究事業を導入する</p>
づくり利用のプログラムの実践的な試行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の動機づけを育てるため魅力を活かすプログラム等の利用を図る。 ・大学などのスキルや情報を持ったサポート人材による、教育型、研究開発型のプログラム実証試験を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小中高の総合学習や実験授業では実施プログラム等の準備が不可欠。 ●『パークビジネス』的な管理費を生み出すための専門家によるパークコンソーシアム体制(※注)での新たな手法や発想を導入し、将来目標像の実現を図る。 大学や専門家団体・企業等は、研修プログラム等の「教育効果」や景観開発や環境調査などでの「研究開発」目的があると参加しやすい。 	

(※注) パークコンソーシアム体制：従来の公園利用の花木観賞会や舟遊び、アートキャンプなどの活用から、一定の管理費負担を得ることを含めた、新しい資源活用型のオープン公園利用などの試行開発のため、研究開発を図るコンソーシアム体制。

イメージとして、花などの水耕栽培水上ファーム利用や企業団体の研修施設利用、公園を背景とした商品展示会、地産地消の国際交流キャンプ、農消交流 BQ 大会などの活用が想定される。そのため、調査、企画開発から実践、指導、記録分析、商品化など数多くの異分野・異業種の専門家の参加が必要になる。

4. コンセプトの設定

本章では、都市計画マスタープランにある「魅力を最大限発揮できる」の『魅力』について深く考察し、その結果をコンセプトに反映させている。

4-1. 大池公園の魅力

「3-1. 現状からの課題抽出と方向性」では、公園の現状や利用者ニーズから課題を抽出したが、概ね現状の機能維持と機能充実に集約される。その中で大きな課題として、利用者が概ねリピーターに固定されている現状から、「本町を代表する公園としての多様な利用者の拡大」が挙げられる。周辺の類似施設は、それぞれ特徴的な整備が行われており、大池公園においても利用者の拡大のための新たなテーマづくりが必要になっている。

利用者の拡大を図るためには、都市計画マスタープランに位置付けられているように、『水と緑の拠点』に位置付けられ、魅力を最大限発揮できるように、自然環境の保全を前提として、レクリエーション機能、コミュニティ機能、アメニティ機能の充実を図ることで大池公園の魅力を発信し続けるテーマが重要と考える。ここで、大池公園の魅力は、利用者アンケートやワークショップで以下のものが挙げられている。

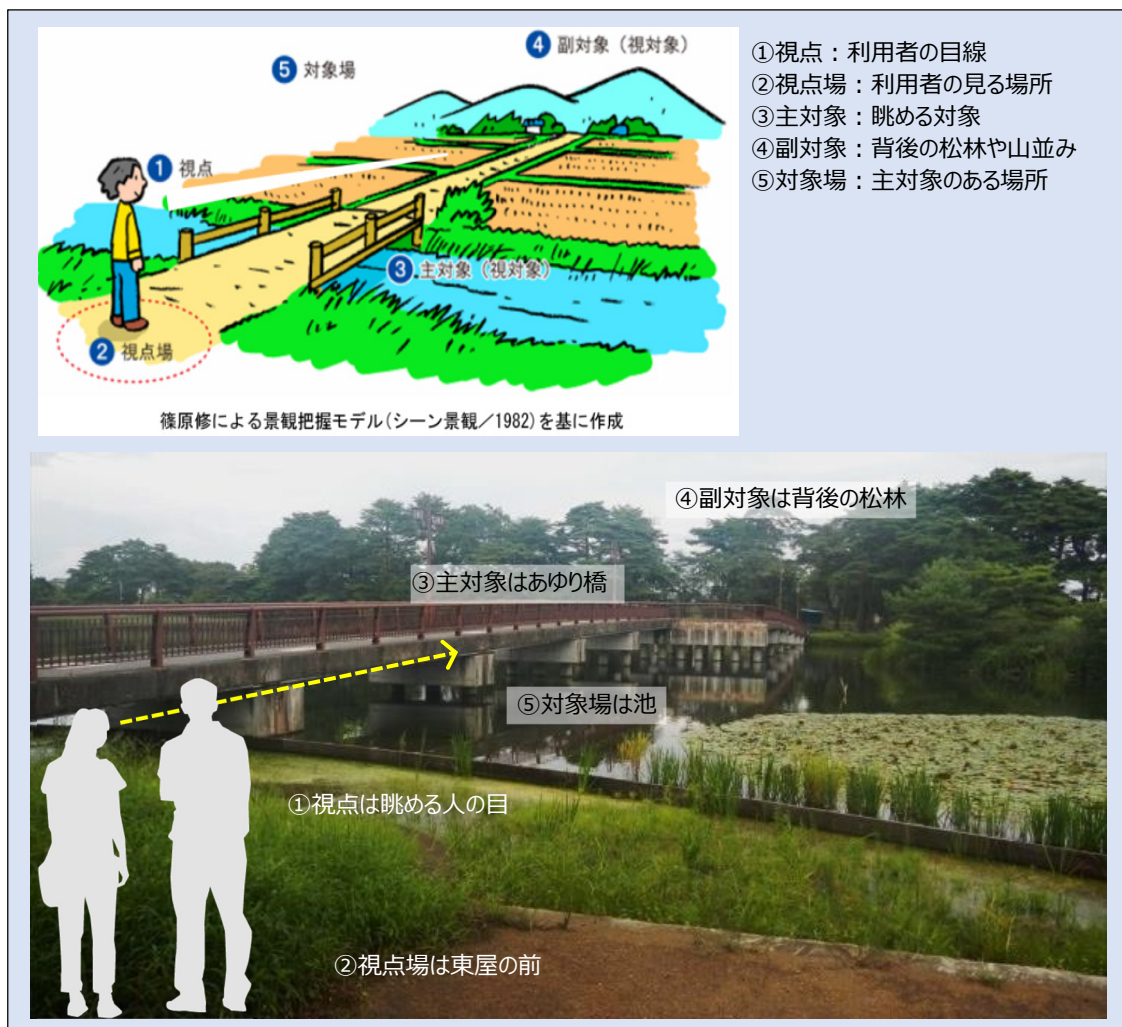
【大池公園の魅力】

大池公園の魅力	魅力の価値内容
「緑豊かな自然環境」	・水と緑の自然に浸るやすらぎ
「日本庭園」	・眺めと回遊の楽しみ
「遊歩道」	・健康、快適さ、気分転換、水辺のやすらぎ
「水辺の施設」	・利便性、快適さ、水辺のやすらぎ
「景観」	・眺め、水辺に浸るやすらぎ、絵心・芸術
「遊具」	・楽しみ、快適さ



大池公園の最大の魅力は、大池の周囲に柵がないため池と連続した親水空間が形成され、その背後に遠景の山並みと田園が見通すことができ、回遊動線上に水辺の施設や日本庭園などの施設が次々と現れる（シーケンス景観：視点を移動させながら次々移り変わっていくシーンを継続的に体験する景観）ことにあると考えられる。

大池公園の景観把握モデル図



■ 近景、中景、遠景

視点を固定させ、視対象の見え方の変化を区分して景観を捉えると、近景、中景、遠景に区分できる。近景、中景、遠景は、単純な距離的な区分ではなく、その景観の見え方の違いによる区分である。

	景色の認識	視る距離	大池公園の景
近景	樹木の1本1本が、各々1本の樹木として認知できる範囲にある対象場をいう	およそ400m以内の対象場	大池の対岸景観は近景となる
中景	樹木が1本の樹木としては認知できないが樹木が形作る凸凹が認知できる範囲にある対象場をいう	視距離およそ2.5km以内の対象場	南北の対岸景観は中景となる
遠景	樹木がほとんど認知できず地形にだけこんでしまうような範囲にある対象場をいう	それ以遠の対象場	那須連峰などの遠くが遠景となる

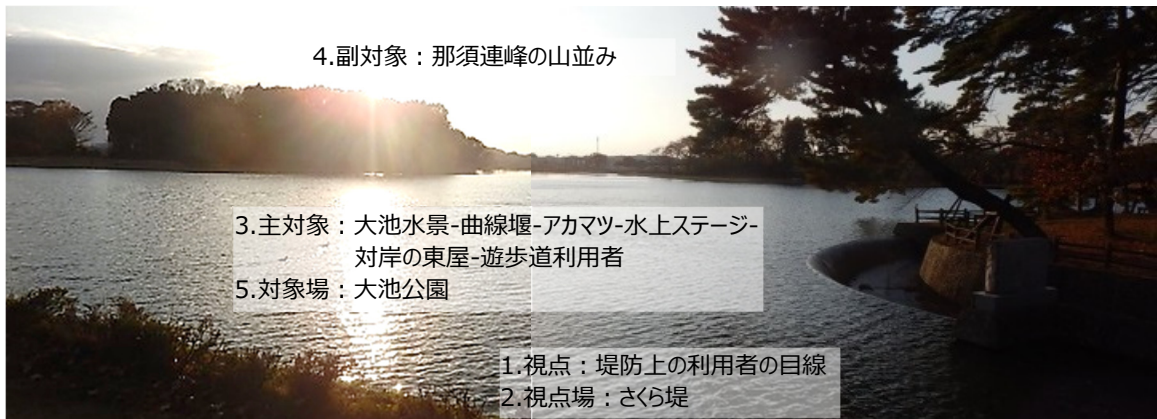
4-2. 大池公園の景観の構図

大池公園を景観の構図で見ると、以下の4点が特徴的な景観といえる。

- ① さくら堤の歩道から那須連峰の眺望景観
- ② 水上ステージ越しの湖上景観
- ③ 茶室から日本庭園のお庭景観
- ④ 大池湖岸一周遊歩道に沿った回遊景観（シーケンス景観）

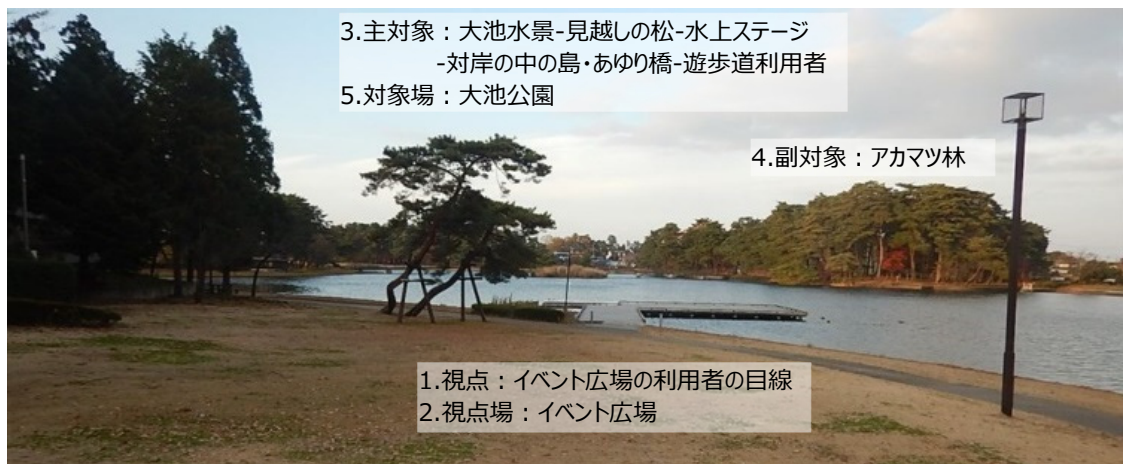
① さくら堤の歩道から大池の水景と那須連峰を眺める景観

公園ゲートから入ってさくら堤に出ると、大池の水面が目に飛び込み、次に水上ステージ、水音のする曲線堰などで、晴れた日には那須連峰が遠くに見える代表的な景観である。



② 水上ステージ越しの水と緑の湖上景観

池の水面に対岸の橋や木々が倒景で映り、水辺と一体になったやすらぎに浸れる。カモの群れが水辺の魅力を感じさせる。見越しの松は近くにあり（近景）、中間にあゆり橋やマツ林が見え（中景）、奥に六角堂が遠望（遠景）されるため公園の奥行き感が、利用者を奥へ奥へと誘う景観である。



③茶室から日本庭園の蓮池や四季の花木などを見下ろすお庭景観

本公園の目玉になっている、大賀博士の大賀ハスの池があり（近景）、見下ろす日本庭園の俯瞰景の中にあゆり橋（中景）が目線を止めるアイストップ景観になっている。残念ながらガマやヨシに被われ八つ橋が見えない。庭園の魅力は、主人のいる茶室などからの眺めの魅力が（無意識のうちに）記憶されることや回遊する利用者が庭観賞に浸っている姿が絵になることである。



④大池湖岸一周の遊歩道を回遊し眺める連続景観

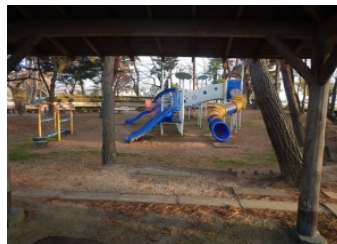
景色の移り変わりを連続したシーケンス景観として楽しむことができる。昼夜、四季折々、晴雨嵐雪に景色の移ろいの深い景観を味わうことができる。東中央ゲートの石碑周辺を起点に時計回りで外周した景観変化の魅力を示す。



●起点:中央口の開拓の碑



→→抜けると大きな水音



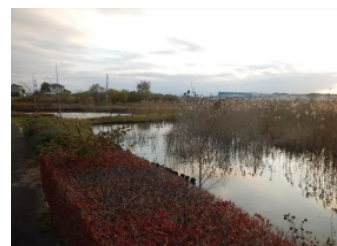
→→ちびっこ広場の歓声



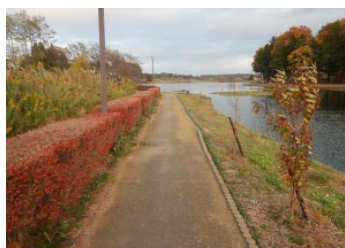
→→南口から松越しに池



→→水辺に誘う水上ステージ



→→トンボ池越しに那須連峰の眺め



→→生垣の直線形が奥へ誘う



→→柵が無い親水の魅力とあゆり橋の眺め



→→名所になる流枝松



→→八つ橋の先に六角堂



→→電車の音が聞こえる六角堂



→→水上支柱の流枝松



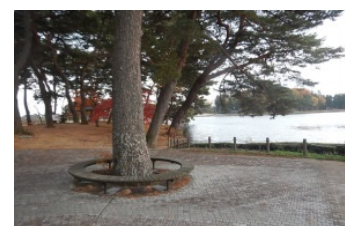
→→ヨシ・ガマ原の八つ橋



→→茶室から庭の額縁景



→→東屋から日本庭園の大賀ハス池



→→あゆり橋詰広場



→→中の島と橋を眺める



→→曲線堰の水音と大池→●起点:中央口

このように、大池公園は眺めの良い場所と多様なシークエンス景観があることが魅力である。この魅力をベースとして、レクリエーション機能、コミュニティ機能、アメニティ機能を充実させて利用者の満足度の向上を目指すことを再整備のテーマとする。具体的には、方向性で設定した、自然環境維持機能、遊び機能、健康増進機能、癒し・いこい機能の充実を図るものとする。

しかし、このような機能は、それぞれが完結しているものであり、性格の異なる多様な施設となってしまうため、全体の統一感が感じられにくい。そのため、子どもから高齢者まで多世代が楽しみ、既存の利用者を大事にしつつ、新たな利用者の誘客を引き出すために町民協働での公園づくりを推進していくには、時間をかけて利用者も管理者も共有できる目標像が必要になっている。

4-3. 共有できる目標像としての景観

中国の湖南省で、暮らしの中の絵画的な景観的な魅力を名所化した「瀟湘八景(しょうしょうはっけい)」(※注)が生まれた。それを受けて江戸時代の日本の近江八景(琵琶湖南西部の八つの景勝)や金沢八景(横浜市金沢区にあった景勝地)は生まれた。他に博多八景や江戸八景など全国に数多くの八景がある。それぞれ八景は自然の風景、気象、風物の変化の魅力を名所にしている。そのため「八景」という響きは優れた景観の名所を想像させる。

※瀟湘八景:湖南省の景観を詠んだもので中国の山水画の伝統的な画題。またその8つの名所のこと。瀟湘は湖南省長沙一帯の地域。洞庭湖と流入する瀟水と湘江の合流するあたりを瀟湘といい、古より風光明媚な水郷地帯として知られる。

一、瀟湘夜雨 [しょうしょう やう] :瀟湘の上にも寂しく降る夜の雨の風景。

二、平沙落雁 [へいさ らくがん] :秋の雁が銜になって干潟に舞い降りてくる風景。

三、烟寺晚鐘 [えんじ ばんしょう] :夕霧に煙る遠くの寺より届く鐘の音を聞きながら迎える夜。

四、山市晴嵐 [さんし せいらん] :山里が山霞に煙って見える風景。

五、江天暮雪 [こうてん ぼせつ] :日暮れの河の上に舞い降る雪の風景。

六、漁村夕照 [ぎょそん せきしょう] :夕焼けに染まるうら寂しい漁村の風景。

七、洞庭秋月 [どうてい しゅうげつ] :洞庭湖の上にさえ渡る秋の月。

八、遠浦帰帆 [おんぼ きはん] :帆かけ舟が夕暮れどきに遠方より戻ってくる風景

そこで、大池公園の景観を町内外にアピールするため、また様々な取組を1つに統合するために、大池公園の「八景」を設定し公園の魅力を掘り起こし、町民が愛で、誇れる場所にする。

多様な施設やエリアを景観という共通するテーマでくくり(=八景)、大池を愛でる矢吹町民の誇りを発信する。公園独自の利用者の景色、すなわち子ども達の歓声や語らう声、お茶会の装いの景、イベント景、キャンプ風景、蝶やトンボの景、カモの群れの景などの魅力的な景観を目指した「大池八景」をコンセプトとする。



大池公園の景観ポイントの魅力を具現化する「大池八景」を以下のように設定する。
その魅力を見て感動してもらいたいポイントを図示する。

大池八景		魅力のポイント
一景	花と水面に映える 那須連山の景	・春、さくら堤の歩道から大池を望むと頭上に桜の花々、対岸に茶臼岳など那須連峰の景色が楽しめる。 ・夏、彼岸花が水辺に絨毯のように咲き、松の緑に映える景色が楽しめる。
二景	子ども遊びの 水辺の景	・ちびっこ広場の森での子供たちの歓声が導水の水路の流れからも聞こえ、活気を感じる景色が楽しめる。
三景	トンボ池の自然と ふれあいの景	・大池から独立した湿生生物のエリアではトンボが舞い、湿生植物の花を楽しむ人々の景色が楽しめる。
四景	風渡る桜の島と あゆり橋の景	・大池中央の中の島の桜から花吹雪が、あゆり橋に落ちてくるといふ花風の景色が楽しめる。
五景	大木の緑映える 松林の景	・アカマツの赤い幹肌、柔らかな針葉が大きな林の景色として大池の水面に映る景色が楽しめる。
六景	電車からも見える 八つ橋・望楼景	・大池の北端にシンボリックな二階建ての望楼が八つ橋と一体になって絵になる景色が楽しめる。脇を走る東北本線の電車からもその一部の景色が楽しめる。
七景	大賀ハスの咲く 日本庭園の景	・大池のあゆり橋を見下ろす茶室から庭の景色が楽しめる。庭の池には大賀ハスが咲き古代の景色を想像させる花が楽しめる。
八景	開拓の水音がする 水騒の景	・大池の曲線堰は開拓の歴史を想像させ、爽快な落水の水音の景色が楽しめる。



【コンセプト】

大池八景

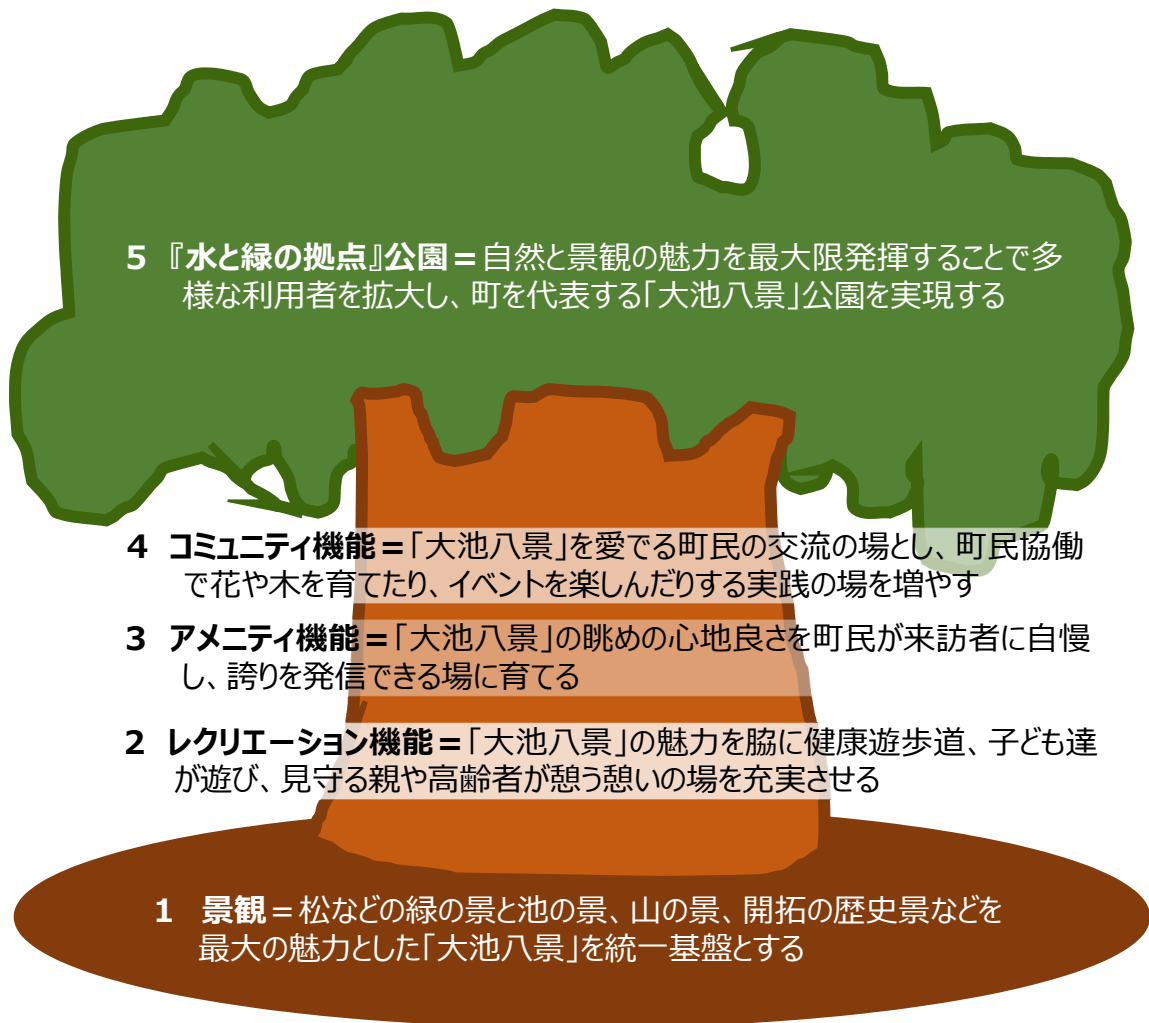
～自然と景観の魅力が多様な利用者を拡大し、町を代表する水と緑の拠点を目指す～

【将来像を実現するプロセス】

水と緑の土台となる景観を大事にして、その上で公園の各機能が発揮され、多様な利用者の利用により育てた成果として初めて当町を代表する公園像「大池八景公園」が浮かび上がるものとする。

言い換えれば、大池八景に磨きをかける活動を使い手の利用者や造り手の技術者、デザイナー、守り手の管理者、ボランティアの三者の連携・協働があつて大池は外に魅力を発信できる。

その活動には時間がかかることを「育てる楽しみ」として多くの老若男女の参加が八景を熟成させ、新八景を生み出す



5. 基本方針の設定

コンセプトの各プロセスを踏まえて、保全及び整備の基本方針を以下の通りとする。

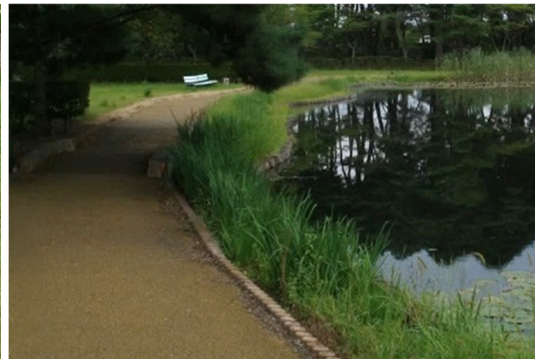
プロセス要素	保全基本方針	整備基本方針
1 景観 松などの緑の景と池の景、山の景、開拓の歴史景などを最大の魅力とした「大池八景」を統一基盤とする	1-①池の環境保全	
	1-②水辺植生の管理	
	1-③大賀ハスの再生	
	1-④湿生植物の管理	
	1-⑤アカマツ林の保全	
	1-⑥景勝松の保全	
	1-⑦植栽の適正管理	
		1-⑧中の島の修景
		1-⑨解説サインの整備
2 レクリエーション機能 「大池八景」の魅力を脇に健康遊歩道、子供たちが遊び、見守る親や高齢者が憩う憩いの場を充実させる		2-①遊歩道の補修
		2-②サポート施設の整備
		2-③展望台の活用
		2-④新たな遊びの追加
		2-⑤水辺遊びの促進
		2-⑥親の居場所づくり
		2-⑦水辺のシンボル改善
3 アメニティ機能 「大池八景」の眺めの心地良さを町民が来訪者に自慢し、誇りを発信できる場に育てる		3-①ベンチの改修
		3-②視点場の案内サイン整備
		3-③案内・誘導サイン等の整備
4 コミュニティ機能 「大池八景」を愛でる町民の交流の場とし、町民協働で花や木を育てたり、イベントを楽しんだりする実践の場を増やす		4-①町民協働による植栽
		4-②景観イベントの実施

1 - ①池の環境改善

- 水質・水流の改善：大池の北部は湖底の土砂堆積が進みヨシ、ガマが拡大している。そのためもあって六角堂周辺の八つ橋周辺の水流が滞り水質が悪化している。ローコストで効果的な改善手法を見試し検討しつつ水質等の改善を図る。

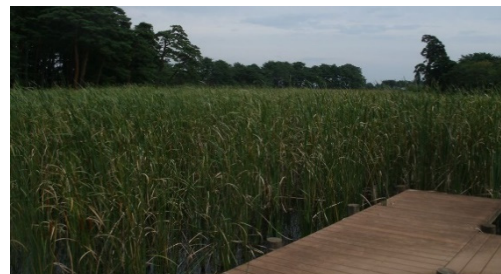


- 安全性の確保：水際の柵が無いため親水性が高く、水辺との一体感があるのが大池の魅力を生み出している。一方、安全のために柵を設置すべきという指摘もある。両者を満足させる手法として落水危険個所を無くすために水際の水生植物植栽帯を復元する。(アヤメが波などで衰退した原因を改善した復元を検討する。)



1 - ②水辺植生の管理

- ヨシ、ガマの繁殖が景観や歩行阻害となっている場所もあることから、掘り上げ駆除や刈取り活用、繁殖抑制など保全と改善、改修を経年的な実践観察を通して適正に管理する。



1-③大賀ハスの再生

- 以前は大池を埋め尽くすほどの大賀ハスが自生していたが、何らかの原因で枯渇してしまっているため、再び元の大賀ハスの咲き乱れる大池に再生する。
- 現在は、日本庭園に大賀ハスが生育しており、当公園の目玉になっていることから、蓮の増殖に注力し蓮園として観賞利用を充実する。
- また、再生については、大賀ハス再生プロジェクトが進行しており、このプロジェクトとの連携・調整を行う必要がある。



1-④湿生植物の管理

- 六角堂周辺は、赤、白、黄色の睡蓮が植栽されている。水質改善を図りながら、花の中の六角堂など絵になる景色に改善する。しかし、生育領域が拡大すると他の生態系への影響が懸念されるため、適切な生育範囲による管理が必要である。



1-⑤アカマツ林の保全

- 大池公園の良い点としてもっとも多くあげられているアカマツ林は、数種類のアカマツ種から構成されており、希少種である可能性もある。
- これから保全していくためにどうして行くべきか整理する必要がある。また、老木の整理を行い、世代継承（更新）についても考える必要がある。



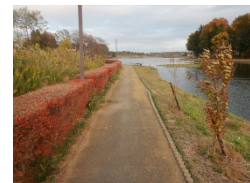
1-⑥景勝松の保全

- 池の中に傾き、水辺に映える流枝松などを名称つきの大池の八景名所松にしていくために、自然の形状を大事にしながら水面に落ちている枝や混み過ぎている枝などを整理し、養生杭なども名所松景観の一体として改善する。



1-⑦植栽の適正管理

- 八景に似合う配植や移植として、様々な団体の植栽時でのご苦勞に感謝しつつ了解を得ながら植栽の見直しを検討する。樹木は10年でおおよそ最終形態になることから将来の形状を想定して移植や新たな植栽を考える。



- 特に日本庭園付近では眺望景観を楽しむ滞在時間の長い回遊利用になるので、内部から外部からそれぞれの見え方、見通しなどにも配慮した見直しや植栽を検討する。



- また、子ども達のドングリの森ニーズもあることから未利用エリアでの植栽を検討する。

1-⑧中の島の修景

- 景観樹選定：美しい中の島に改善するために、シンプルな地被植物と景観樹のみの景色に修景改善する。人の入りにくい場所のため管理手間のかからない植栽とする。



1-⑨解説サインの整備

- 多種多様な生物、アカマツなど大池固有の自然情報や農業用貯水池としての大池の開拓の歴史情報などを紹介する解説サインを整備する。

2-①遊歩道の補修

- 車イス移動に対応した遊歩道のバリアフリーの段差解消や散策、ジョギング利用者の安全性、快適性を向上した改善整備を行う。また、遊歩道の周回経路の検討による周回距離を明確にすることやアカマツの根へ直接的に踏圧がかからない離れなどに配慮することについても考慮する必要がある。



2-②サポート施設の整備

- 遊歩道や健康広場の散策やジョギング、ストレッチ利用でどの程度カロリー消費になるか、健康向上の自己チェックができる距離柱やガイドパネルの整備を検討する。多くの利用者がスマートフォンを携帯していると思われることから QR コード付きの情報提供ができれば望ましい。



2-③展望台の活用

- 現状の展望台は景観を楽しめる位置にあるが行き止まりになっていて他の施設との連携性や居心地性が低く利用されにくい。隣接する「ちびっこ広場」との連携性を高める動線コースの1つに入れて利用者増へ改善を図る。



2-④新たな遊びの追加

- 各年齢層に合った遊び施設のニーズがある。全て対応は無理として利用者の定量的な把握をしながら、遊び施設の質・量の改善を図る。保護者や指導者を含めた改善検討会をワークショップで開催し検討する。



2-⑤水辺遊びの促進

- 現状の羽鳥ダム用水の取り入れ口が南駐車場にあり、ちびっこ広場と隣接することから安全な水遊び場になっている。導水の激的な変動にも対応できる安全性を確保しつつ、流れの水遊び場利用箇所を改修し保護者の滞在できるデッキテラスの基盤整備を行う。可能であれば展望台の空中回廊整備と合体した整備が望まれる。



2-⑥親の居場所づくり

- ちびっこ広場には東屋があるが、子供の遊びを見守る保護者が長い時間滞在できる居心地の良い場所としての改修を検討する。その他、水辺や遊歩道周辺にも保護者が見守り、滞在できる居心地の良い場所としてベンチやテラスを改修、整備する。

2-⑦水辺のシンボル改善

- 水上ステージを様々なイベントに対応する仕様に改善し整備することが要望されている。ただし、イベント対応だけでなく、平常時の景観ポイントになっていることからシンボリックなデザイン検証と、居心地の良い場所にすることが期待される。



3-①ベンチの整備

- 遊歩道や広場、駐車場などにあり、腐朽や錆が出ている木製、金属製のベンチの安全性や快適性に配慮し、居心地の良い利用されやすいベンチに改修、整備する。



3-②視点場の案内サイン整備

- 「大池八景」の景観をアピールする公園として、シークエンス景観の魅力をガイドし、景観ポイントの楽しみ方を紹介する案内サインを整備する。

3-③案内・誘導サイン等の整備

- サインは、ゲート看板から全体案内ガイド、方向サイン、解説板など色調やロゴ、文字種などデザインの統一を基本とする。子供から高齢者までに分かりやすいマークや記号でのデザイン、大小の文字の配置など利用者に配慮したデザインサインとする。
- 整備においては費用対効果を考え、耐候性の高い看板とするか随時地元の専門技術者の補修できるものとするかも検討する。
- また、県外者の利用にも配慮し、放射線量の表示の意味、安全安心利用のための情報提供にも配慮したい。



4-①町民協働による植栽

- 大池八景の景観向上を図り、花の植栽から管理を町民協働で行う。その際、体制づくりと計画的な植栽をワークショップで検討する。

4-②景観イベントの実施

- 大池八景の景観向上と利用者（使い手）が造り手や守り手として参加し、公園を育てることにつながる景観に関するイベントを実験的に行う。



事例：竹灯ろうイベント



事例：親水舟体験イベント

6. 整備計画案

公園整備とその後の活用、管理を踏まえた整備計画案を以下に示す。

整備内容は、それぞれの魅力資源や活用イメージを考慮し、町民協働で育てていくことが望ましいことから、【整備検討提案例】と【ソフト検討提案例】として示す。

また、整備に当たっては当該計画案を元に詳細計画を作成し、整備計画に即した整備を行うように実施する。

6-1. 全体計画

6-1-1. 公園全体の整備内容

公園全体に資する整備内容を以下に示す。

大池公園内には、大池を周回できるウォークロードや点在するベンチなど多くの施設が整備されている、また、さまざまな動植物が生息、生育しそれらは希少種となる種もいる。

そのため、各施設の整備内容や公園全体としての環境保全の検討を行う。



保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
○公園全体を通してチョウ、トンボなどの貴重な昆虫の食草、食樹の保全・更新が必要 ○動植物に配慮した除草などの維持管理 ○大池の眺め景観を遮るヨシ、ガマ原環境を改善する	○快適一周ウォークロードの整備(改修・整備) ○大賀ハスの再生 ○大池公園総合案内+案内看板の統一化 ○流枝の景勝松の景観整備 ○ヨシやガマの抜根処理とアヤメなど水辺の花植栽	○各景による景観イベント実験 ○八景イベントなどでのフラッグ設置でPR ○快適一周健康度チェックウォークイベント

6-2. ゾーニング計画

6-2-1. ゾーンの設定

ゾーニングは大池八景を基本として設定するが、景観の視対象や整備が必要と考えられるエリアを追加し12個のゾーニングとする。

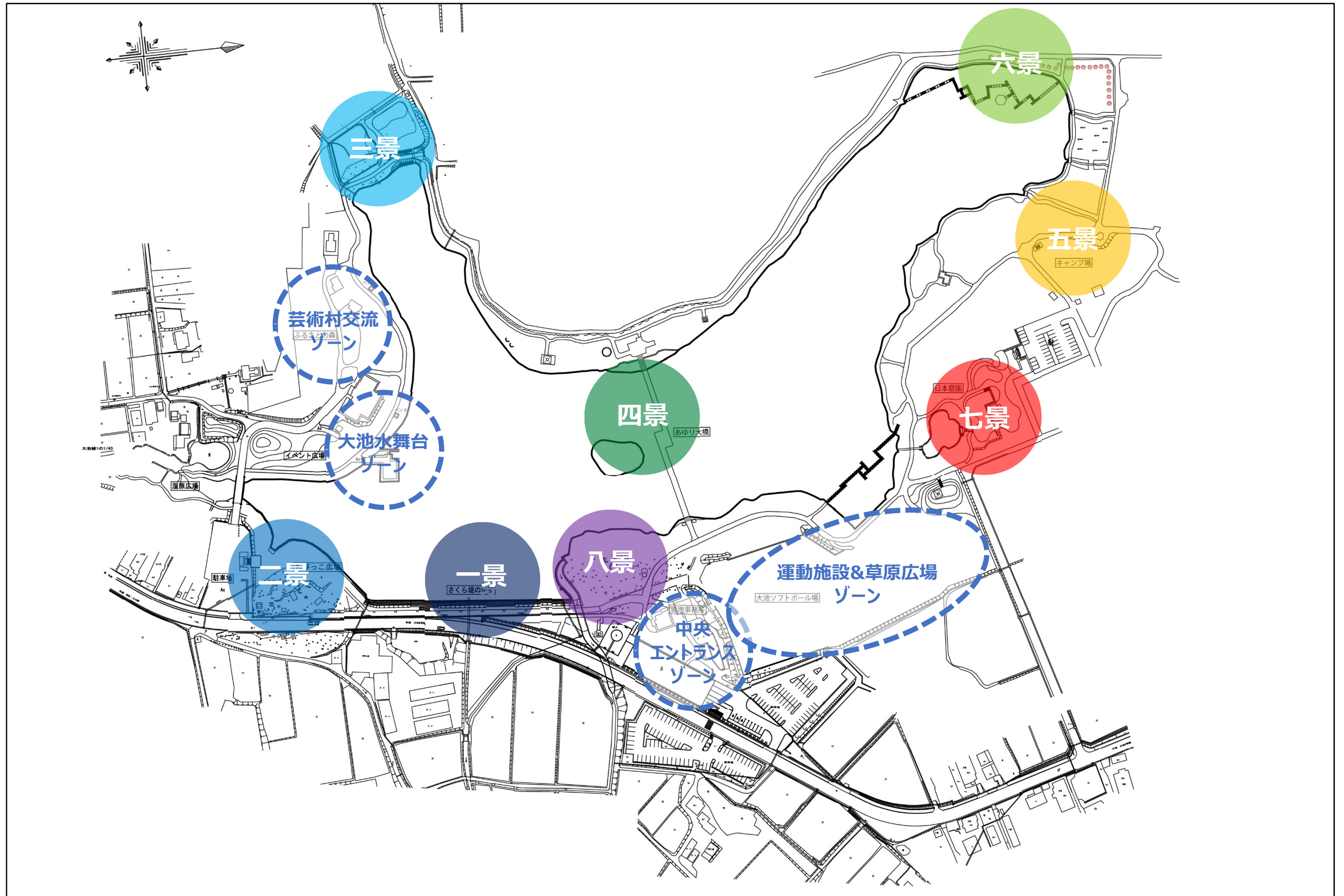


図 6-2-1 ゾーニング図

6-2-2. ゾーン毎の整備内容

(1) 一景（大池眺望ゾーン）

茶臼岳の眺望と桜並木の視点場を活かし、大池の東側に眺める場所づくりを行う。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○大池の水辺に近づける護岸の親水環境を保全する ○眺めの雰囲気を阻害するものを常設しない 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹ポット^(※)活用によるアヤメなど岸辺の水生植物の植生復元 ○水鳥など環境ガイド看板 ○園路際の眺望デッキ ○八景休憩ベンチ ○遠景の解説サイン 	<ul style="list-style-type: none"> ○八景花見の会 ○池に映る月を愛でる会 :1年に一度は公園照明等を落として楽しむ

※穴のあいた竹ポットは池の波浪から苗の根を守り、根が定着したころに竹は腐って土になる。過密竹林の間引きによる改善(筍が出るようになる)と竹の再利用との一石二鳥の手法である。



※事例：宍道湖で実施された竹ポット

(2) 二景（キッズ遊び&南側エントランスゾーン）

ちびっこ広場や駐車場、トイレ、直売所がある立地を活かし、展望台を活かした親水テラスを整備する。

また、子供づれの利用を促進するための林内環境を活かしたツリーハウスやアドベンチャー遊具などを検討する。



事例：ツリーハウス、アドベンチャー遊具

環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○アカマツ林の保全のため林内の踏圧防止のために木チップなどを敷きならす ○子供たちにはアカマツの森の魅力が知らず知らずに遊びの中で原風景として記憶されるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○伐採木や剪定枝の木チップ舗装 ○地産地消 BBQ 交流カフェテラス ○用水導水親水テラス・ベンチ+パーゴラ(ブランコ型ベンチ) ○大池八景案内板(QR 付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供たちにマツボックリや松明などアカマツの魅力をガイドする ○アカマツの森の魅力、森の楽しさを五感で感じとれるように、木肌感触、匂い、森の風をプレイリーダーがガイドする「ガキ大将遊び」の日を設ける

(3) 三景（トンボ湿地観察ゾーン）

チョウトンボなどの多くの昆虫の観察が楽しめるゾーン。そのため環境の改変を避けながら植生復活を進める（穴あき竹ポットの活用）。

スマホで検索できる QR コード付きパネル設置を検討する。



保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○池の生態的な多様性を保全するために湿地の構造や水質、水温などを定期的に記録し保全データとする ○現在の自然環境を壊さぬ様に過度な整備はしない 	<ul style="list-style-type: none"> ○トンボ湿地の環境学習パネル(QR コード付き) ○池の湿生植物植栽 ○背後の住宅等の景観緩衝植栽 ○大池八景案内板(QR 付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ○トンボ環境学習会 ○トンボ博士ガイドの日 ○景観イベント実験(例：木彫のトンボ・チョウ木道手摺展示)

(4) 四景（中の島・あゆり橋出会いゾーン）

大池の四方から眺められる景観で八景の中心にあるゾーン。東西をつなぐ橋や唯一の中の島の景観改善を図りながらシンボリックな枝垂れ桜などの植栽で大池八景を発信する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○水辺の水生植物などを復元し、魅力を保全する ○水辺の眺めで雰囲気을阻害するものを常設しない 	<ul style="list-style-type: none"> ○橋詰めビオトープや東屋前でのアヤメなどの植栽 ○流枝の景勝松の景観整備 ○中の島に枝垂れ桜などを植栽 ○彼岸花など植栽帯拡大 ○大池八景案内板(QR 付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ○アヤメなど水生植物の植栽ボランティア募集 ○景観イベント実験（例：ハンギングバスケット等でのあゆり橋花飾り、中の島の菜の花畑、あゆり橋ライトアップ&イルミネーション）

(5) 五景（水辺のアカマツ林散策ゾーン）

数種類のアカマツからなる林の魅力をアピールするゾーン。森林浴散策や森林環境学習、森の生態アートキャンプなどで楽しめる見通しの良い空間にする。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○アカマツ林の保存のための基盤整備をおこなう ○数種類のアカマツ種が群生しているが、枯れ始めている個体もあり、新しい個体の確保・更新をおこなう 	<ul style="list-style-type: none"> ○伐採木や剪定枝の木チップ舗装 ○アカマツ林の環境学習パネル(QR 付き) 大池八景案内板(QR 付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ○アヤメなど水生植物の植栽ボランティア募集 ○景観アートイベント実験（例：アカマツ林の生物展示インスタレーション）

(6) 六景（六角堂・八つ橋水景ゾーン）

スイレンの花々に浮かぶ六角堂と八つ橋の水景ゾーン。八つ橋の中間地点にスイレンの花観賞を楽しめるデッキの設置を検討する。六角堂内部には四季の絵になる景色を紹介するパネルと検索できるQRコード付きパネルも設置を検討する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none">○スイレンやカルガモなど水辺環境を保全・維持する○滞留しているため低下している水質を改善する○眺めの雰囲気を阻害するものを常設しない○電車から池の景観が楽しめるようにする	<ul style="list-style-type: none">○花観賞デッキ○サクラ苗などの適正再配置(将来樹形や電車からの視野の確保などの検討)○ハーブ園栽培試験○大池八景案内板(QR付き)○環境学習パネル(QR付き)	<ul style="list-style-type: none">○景観イベント実験(例:ハンギングバスケット等での花飾り八つ橋、花六角堂)

(7) 七景（日本庭園&東エントランスゾーン）

大賀ハスを目玉にした庭園ゾーン。利用拡大を図るために大賀ハスの増殖と四季の大賀ハス景観パネル、検索できるQRコード付きパネルも設置する。また、茶室前から八つ橋までの俯瞰景で近景の大賀ハスの池、中景の八つ橋、あゆり橋の修景改善を検討する。また、西側の対岸からの景観に配慮し茶室背後の住宅景観を緩衝する緑地を検討する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<p>○大賀ハスを増殖、保全し目玉として発信できるようにする</p>	<p>○大賀ハスの増殖と植栽、保全のための環境整備</p> <p>○庭園木の景観整備（移植などの検討）</p> <p>○茶室背後の住宅等の修景植栽</p> <p>○大賀ハス景観パネル（QR付き）</p> <p>○大池八景案内板（QR付き）</p>	<p>○大賀ハスの増殖の学習会とボランティア募集</p> <p>○景観イベント実験（例：花飾り八つ橋、花八つ橋デッキ）</p>

(8) 八景（農業開拓堤水音ゾーン）

開拓の歴史発信ゾーン。農業開拓の歴史は貯水池の石碑や形態跡の曲線堰と桜並木堤防が最も分かりやすい。大池八景案内+開拓歴史板(QRコード付き)を設置する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○開拓の歴史を証明している堰や石碑など文化資源の環境を保全する ○眺めの雰囲気を阻害するものを常設しない 	<ul style="list-style-type: none"> ○開拓の歴史テラス付き東屋 ○大池八景案内板+開拓歴史板(QR付き) ○流枝の景勝松の景観整備 ○地産地消費交流八景テラス+水辺休憩リクライニング野外チェア ○茶臼岳を遠望するベンチ ○サクラなどの適正再配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○堰や石碑など開拓の歴史学習会の開催 ○開拓の歴史ガイドの育成 ○景観イベント実験(例：堰の落水音を利用したサウンドアートイベント、開拓史カカシイベントなど)

(9) 大池水舞台ゾーン

桜並木堤からトンボ池までの東西軸景観と南駐車場から中の島までの南北軸景観の交点にある水上ステージを八景のシンボルとする。水面を活かした舟や筏などの多様なイベントプログラム実験で検証し、安全に水辺利用や居心地の良い空間改善を検討する。もって大池のメイン景観を発信する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
<ul style="list-style-type: none"> ○水辺の環境を改善し保全する ○眺めの雰囲気を阻害するものを常設しない 	<ul style="list-style-type: none"> ○アヤメなど水辺の植生環境の整備（竹ポットの活用） ○水辺休憩ベンチ+八景テラス+カヌー棧橋 ○サクラなどの再配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○景観イベント実験(例：親水舟体験、花竹筏、竹東屋、竹灯ろう、水上花火、水上ロボレース、水上にプロジェクター映像を落とすイベント)



事例：竹灯ろう



事例：竹東屋



事例：親水舟体験

(10) 芸術村交流ゾーン

利用者アーティストグループの参加を促し、公園利用の進化を図る。

環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
○森の雰囲気や阻害するものを常設しない	○学生やアーティスト等の参加・交流協働プログラムでの公園づくりの試作 ○建物脇などで水面利用のカヌーや筏などの一時保管場所利用を検討する。	○景観イベント実験(例：大池公園紙粘土模型づくり)

(11) 中央エントランスゾーン

公園のメインエントランスになるゲートゾーン。現在の不鮮明なメインルート改善するため出入り口のゲート整備を検討する。ゲートにはシンボルのアカマツやストレッチ体操のできる芝広場・ベンチ、子ども達の好きなどんぐりの森整備などゾーン内の改良を検討する。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
○アカマツ林の環境を保全する植栽をおこなう ○中央口として分かりやすくするため景観整備をおこなう	○アカマツ林を保護する樹林帯としてどんぐりの森を整備する ○エントランスゲートやメインロード、ゲート並木など中央口を整備する ○ゲートサークル ○ゲートシンボルアカマツ ○快適一周ウォークロードの起終点広場 ○芝広場・ベンチ（イベントの休憩広場を兼ねる） ○大池八景案内板(QR付き) ○健康度チェック情報版(QR付き)	○どんぐりの森は子供たちの実のなる木の体験学習に活用する ○子供のどんぐり拾い大会

(12) 運動施設ゾーン&草原広場ゾーン

夜間照明付きのソフトボール場と大きな多目的広場からなるゾーン

中畑清杯ソフトボール大会の利用やキャッチボール等の運動利用がされているが、今後の利用見通しや他の施設整備計画などを踏まえて土地利用を検討する。

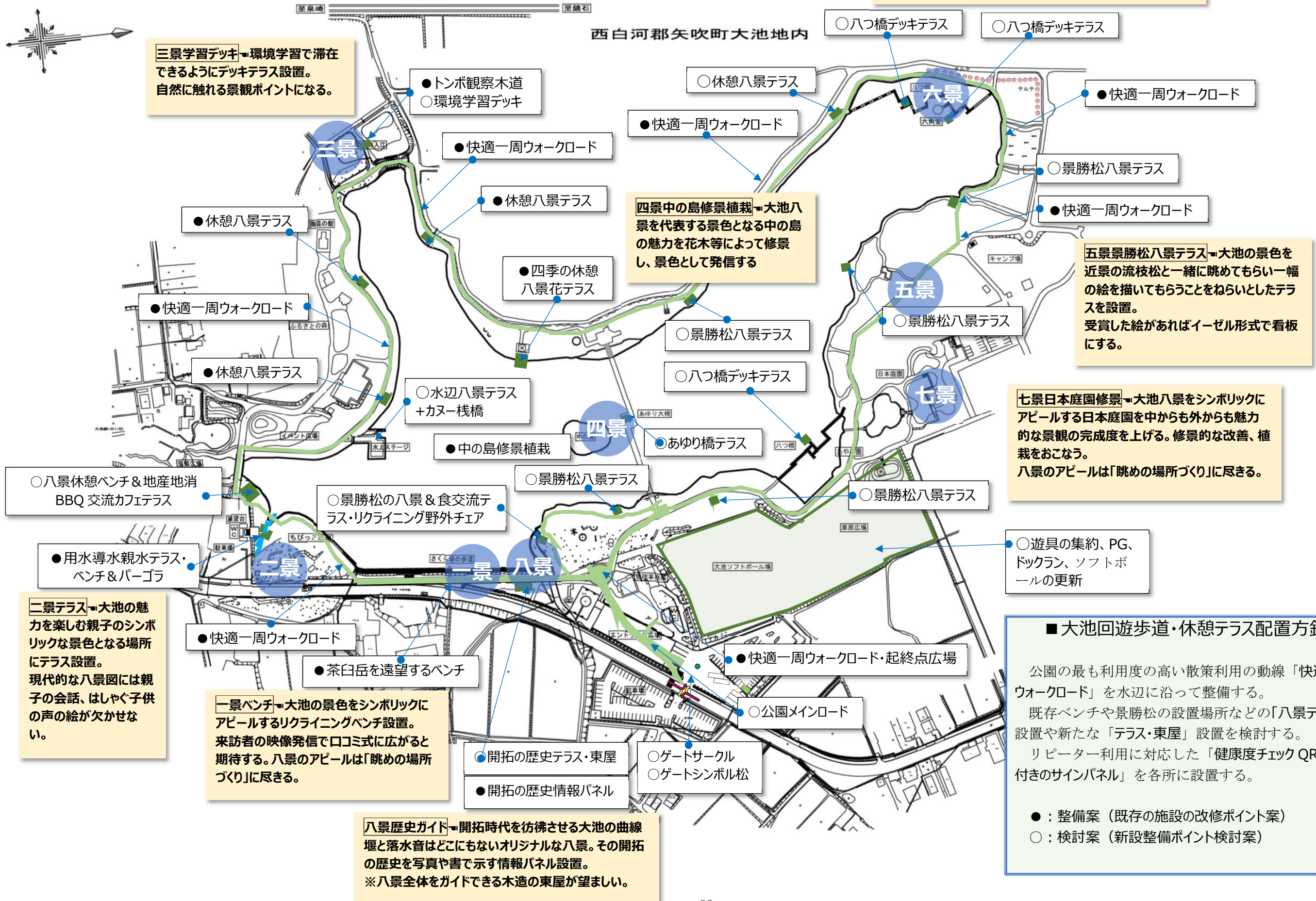
土地利用の検討として分散しているちびっ子の遊び場の集約、幼児から高齢者まで楽しめるパークゴルフ場などが考えられる。



環境保全計画	ハード計画検討提案例	ソフト計画検討提案例
○他の生態系への影響を及ぼさない植栽計画・整備計画をおこなう	○ちびっ子の遊び場の集約および充実 ○パークゴルフ場の整備 ○ドックラン ○芝広場・ベンチ（イベントの休憩広場を兼ねる） ○ソフトボール場の更新	○充実した遊び場のPR ○パークゴルフ場の利用による収益検討、大会の開催 ○中央エントランスゾーンと併せたイベントの開催 ○ソフトボール場の利用に対するPR

■整備動線&施設 Plan 図

潟の魅力を連続的に楽しむ一周遊歩道動線と八景の眺めや休息をとる施設整備を最優先の整備施設とする。



六景八つ橋デッキテラス 大池の水上に咲く花や六角堂を眺め、水上で休息する時間に浸れる魅力的な場所にデッキテラス設置。
撮影ポイントで発信するため電車からも見える配置とする

三景学習デッキ 環境学習で滞在できるようにデッキテラス設置。
自然に触れる景観ポイントになる。

四景中の島修景植栽 大池八景を代表する景色となる中の島の魅力を花木等によって修景し、景色として発信する

五景景勝松八景テラス 大池の景色を近景の流枝松と一緒に眺めてもらい一幅の絵を描いてもらうことをねらいとしたテラスを設置。
受賞した絵があればイーゼル形式で看板にする。

七景日本庭園修景 大池八景をシンボリックにアピールする日本庭園を中からも外からも魅力的な景観の完成度を上げる。修景的な改善、植栽をおこなう。
八景のアピールは「眺めの場所づくり」に尽きる。

二景テラス 大池の魅力を楽しむ親子のシンボリックな景色となる場所にテラス設置。
現代的な八景図には親子の会話、はしゃぐ子供の声の絵が欠かせない。

一景ベンチ 大池の景色をシンボリックにアピールするリクライニングベンチ設置。
来訪者の映像発信で口コミ式に広がると期待する。八景のアピールは「眺めの場所づくり」に尽きる。

八景歴史ガイド 開拓時代を彷彿させる大池の曲線堀と落水音はどこにもないオリジナルな八景。その開拓の歴史を写真や書で示す情報パネル設置。
※八景全体をガイドできる木道の東屋が望ましい。

■大池回遊歩道・休憩テラス配置方針

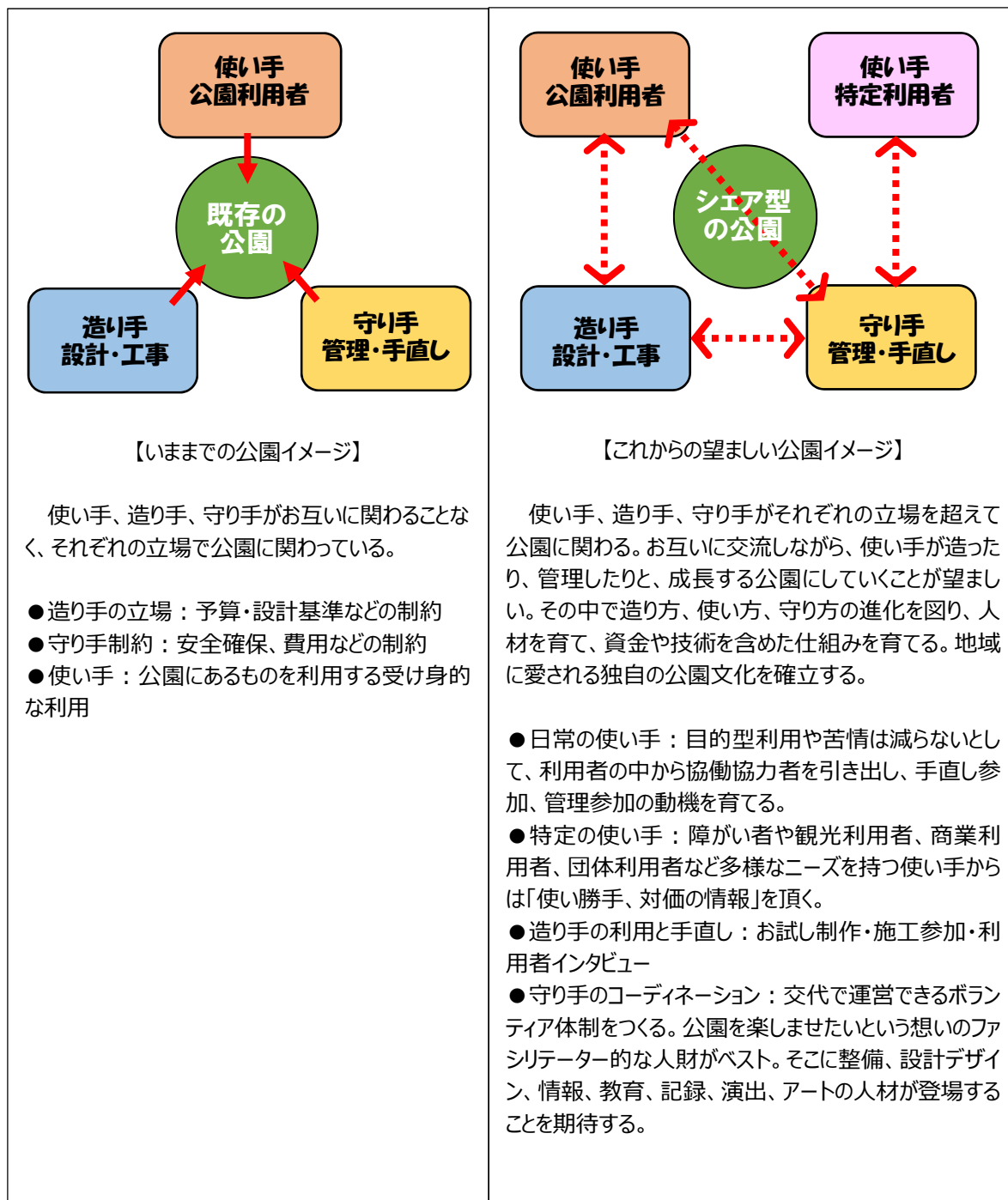
公園の最も利用度の高い散策利用の動線「快適一周ウォークロード」を水辺に沿って整備する。
既存ベンチや景勝松の設置場所などの「八景テラス」設置や新たな「テラス・東屋」設置を検討する。
リピーター利用に対応した「健康度チェック QR コード付きのサインパネル」を各所に設置する。

- : 整備案 (既存の施設の改修ポイント案)
- : 検討案 (新設整備ポイント検討案)

6-3. 整備・管理・活用の整備工程計画

従来の公園整備とその後の活用、管理の工程手順では、使いにくい、管理しにくいという弊害が出る。ここでは育てながら使いながら改修しながら、という整備～管理～活用を一体化させることで、使い手（利用者）、守り手（管理者）、造り手（設計者・施工者）の相互理解・連携協働でより良い公園づくりを進める。

そのためのコミュニケーションを図るために次頁の工程計画表では、整備～管理～活用を並行に進める工程の一覧表として示す。

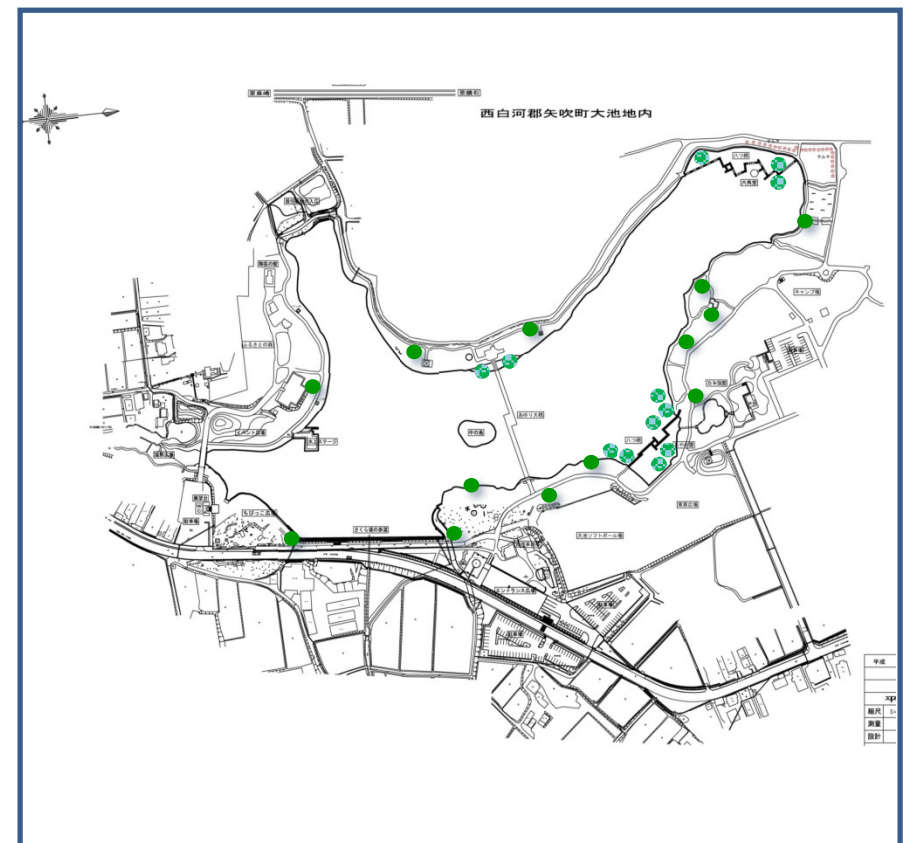
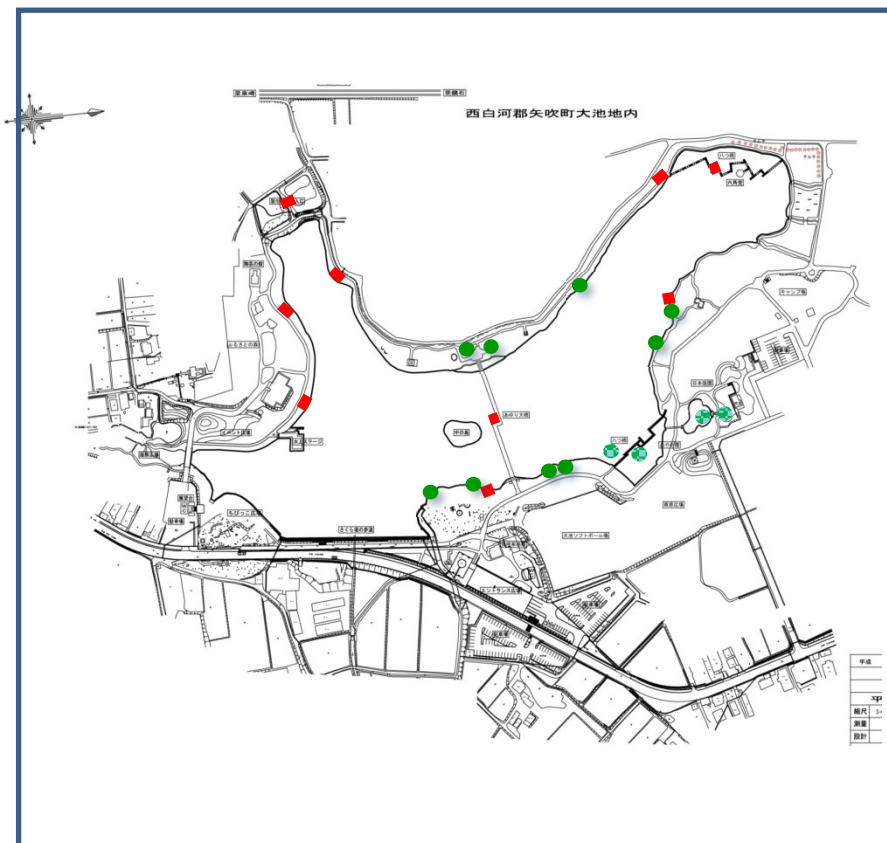
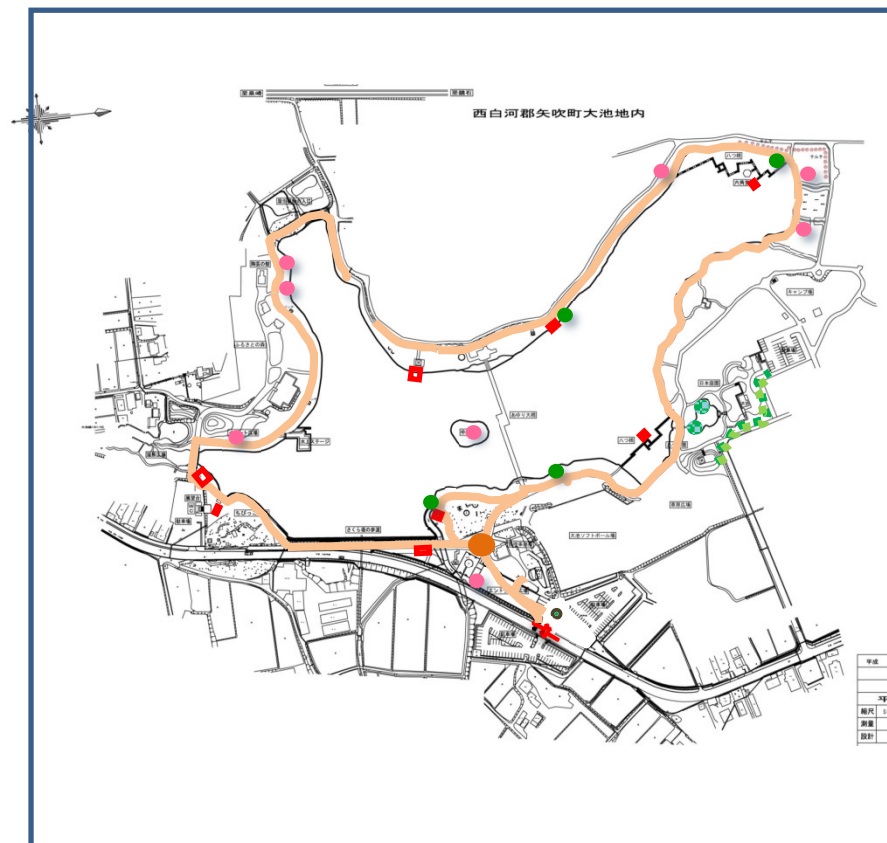


整備・管理・活用による大池公園改修の短中長期計画を図表で示す。

区分	整備・育成・事業メニュー	短期3年(1~3年) 緊要度が高い・効果がすぐでるもの	中期5年(4~9年) 現在の利用者や既存団体が参加型で取組めるもの	長期10年(10~20年) 主体形成など時間をかけ熟成させた方が持続するもの
整備	1. 快適一周ウォークロード 2. 水辺休憩八景テラス・ベンチ &地産地消交流テラス 3. 用水導水親水テラス・パーゴラ 4. 住宅等の修景植栽 5. 開拓の歴史テラス・東屋 6. 大賀ハスの繁殖植栽 7. 景勝松の景観整備 8. ドングリなど実のなる木植栽 9. トンボ池などの湿生植物植栽 10. 八景公園ガイド QR サイン 11. 環境学習パネル QR 付き	←→ (1-5) ←→ (6) ←→ (7) ←→ (8) ←→ (9)	←→ (10) ←→ (11)	←→ (6) ←→ (8)
管理	1. 大賀ハスの繁殖植栽と蓮庭園の PR 2. ヨシやガマの抜根処理 3. 景観阻害物や樹木の整理・サクラなどの 適正再配置 4. ボランティア参加による公園管理・手直 し 【ボランティアや専門団体との連携・協力】・ 建築・造園・環境・観光企業を含めた公園 ファンの組織化からファンクラブの運営へ 5. 公園管理台帳整備・更新	←→ (1-3) ←→ (4)		←→ (1-5)
活用	1. 景勝松の作家による命名版の設置イ ベント 2. 景勝松の持続的な修景景観学習型 の整備 3. 彼岸花など四季の花植栽帯の拡大 4. 健康度チェック情報版 5. 仮設アートイベント実験 6. 学生、アーティスト等の参加、交流協 働プログラムでの公園試作 7. 利用者参加の公園手直し 8. 大学生のプログラムによる組織化へのイ ベント実施	←→ (1-2) ←→ (3) ←→ (4) ←→ (5)	←→ (1) ←→ (3) ←→ (4)	←→ (2) ←→ (6) ←→ (7)

※連携団体イメージ：大学生、ボランティア団体、大池公園ファンクラブ、芸術・歴史・文学・建築・造園・環境・観光ガイド団体、医療福祉・ダンスやヨガなど多様な公園利用団体。

<p style="text-align: center;">短期 3年（1～3年） 緊要度が高い・効果がすぐでるもの。 試行的にモノ、ヒト、ワザ、アジ、アートを検証する中で可能性をさぐる。</p>	<p style="text-align: center;">中期 5年（4～9年） 現在の利用者や既存団体が参加型で取組めるもの。 人材や参加団体、支援者次第で時期は変化する。</p>	<p style="text-align: center;">長期 10年（10～20年） 主体形成など時間をかけ熟成させた方が持続するもの。 少子高齢化社会の中で公園の社会的存在が変化する。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 快適一周ウォークロード 2. 水辺休憩八景テラス・ベンチ&地産地消交流テラス 3. 用水導水親水テラス・パーゴラ 4. 住宅等の修景植栽 5. 開拓の歴史テラス・東屋 6. 大賀ハスの繁殖植栽 7. 景勝松の景観整備 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 水辺休憩八景テラス・ベンチ&地産地消交流テラス 6. 大賀ハスの繁殖植栽 8. ドングリなど実のなる木植栽 9. トンボ池などの湿生植物植栽 10. 八景公園ガイド QR サイン 11. 環境学習パネル QR 付き 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 大賀ハスの繁殖植栽 8. ドングリなど実のなる木植栽
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大賀ハスの繁殖植栽と蓮庭園の PR 2. ヨシやガマの抜根処理 3. 景観阻害物や樹木の整理・サクラなどの適正再配置 4. ボランティア参加による公園管理・手直し 5. 公園管理台帳整備・更新 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大賀ハスの繁殖植栽と蓮庭園の PR 2. ヨシやガマの抜根整理 4. ボランティア参加による公園管理・手直し 5. 公園管理台帳整備・更新 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大賀ハスの繁殖植栽と蓮庭園の PR 2. ヨシやガマの抜根整理 4. ボランティア参加による公園管理・手直し 5. 公園管理台帳整備・更新
<ol style="list-style-type: none"> 1. 景勝松の作家による命名版の設置イベント 2. 景勝松の持続的な修景景観学習型の整備 3. 彼岸花など四季の花植栽帯の拡大 4. 健康度チェック情報版 5. 仮設アートイベント実験 6. 学生、アーティスト等の参加、交流協働プログラムでの公園試作 7. 利用者参加の公園手直し 8. 大学生のプログラムによる組織化へのイベント実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 景勝松の作家による命名版の設置イベント 2. 景勝松の持続的な修景景観学習型の整備 3. 彼岸花など四季の花植栽帯の拡大 4. 健康度チェック情報版 6. 学生、アーティスト等の参加、交流協働プログラムでの公園試作 7. 利用者参加の公園手直し 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 景勝松の持続的な修景景観学習型の整備 6. 学生、アーティスト等の参加、交流協働プログラムでの公園試作 7. 利用者参加の公園手直し



6-4. 公園づくりでの連携・参加協働

6-4-1. 公園リピーターの整備参加について

現状満足リピーター層は、満足度に濃淡があるので、公園整備に能動的にかかわる意識がある層、イベントがあれば消極的にでも参加してくれる層、現状満足でどんな整備でも黙認してくれる層などさまざま一括できないと思われる。そのため、多様な参加の選択肢を示し、公園の利用度向上への貢献活動を引き出し、ゆくゆくは公園管理指導側に引き入れていくべきと考える。また、水辺の公園に危険だから柵を設置すべきというアンケート意見が出ていることから、リピーター層は、危機的な状況での救助へのサポートだけでもリピーターは大きな存在になる。

現状満足リピーターは高齢者が多いことから、様々なスキルや体験情報をもっているとされる。そのため、

1) 能動的にかかわる動機があるリピーター層 ▶公園管理運営の人材化

●参加貢献できるスキルや情報をインタビューアンケートで把握

パークレンジャー的な参画者がいるか、専門スキル人材などリスト化する。公園調査や整備、育成、活用などで可能な協力スタッフとして参加してもらう。

2) 消極的にでも参加してくれる層 ▶公園利用ニーズのモニター化

●健康ウォークや食交流イベント等による参加型の公園整備を通じた利用の可能性やニーズの抽出

イベントの中からリピーターのニーズや課題をリスト化する。これらを公園の整備や利用向上に活用する。

3) 現状満足で黙認してくれる層 ▶最小限公園利用者の危機へのサポート

●人工呼吸の体験講習会などのイベントや情報提供

危機的な状況での救助へのサポートだけでも対応できるリピーターを育成する。

基本は、良い人材のリストアップ（同時に癖のある人材の把握効果もある）を1年間通してじっくりと行い徐々に仲間に取り入れ、育てていくという行程管理が大切である。公園の個人的な利用者を組織、グループ的なサポーターに育てていくため一歩進んで二歩下がるようなスパイラル型の進行になる。したがって、その持続のためには動機づけが大切である。「楽しい」「面白い」「美味しい」「感動する」「達成感がある」「勉強になる」「家族や仲間を誘いたい」「可能な範囲で参画したい」「お祭りイベントなら手伝える」「自分の情報やスキルを試したい」「我が家の、我が社の道具、機械を貸与したい」「遊休畑を使って苗づくりができる」「仲間に料理人やアーティストがいる」「基金があるならお金や器材を寄付できる」など動機づけも育てられる。共感が共感を呼び起こす。当地は開拓者魂がある矢吹町であることから『何もないところから新たなものを生み出す、創り出す』マインドがあることからそのマインドも動機づけにしていきたい。

その記録や分析を研究・教育肌のスタッフ（高校大学の学生も適する）に依頼し、良い

人材を適材適所に採用実験していく企画運営シナリオを、企業経営者や団体指導者、コンサル、大学研究者に依頼する。できるだけ具体的な実践での事業検証を社会実験事業としてプロジェクトにしていくことが望まれる。公共補助事業や民間企業のCSR事業、助成団体の基金事業などで資金的、運営的サポートが必須である。複数の運営コーディネーターによる1, 2年での現場運営管理が望ましい。

●ステップアップのためのシナリオ案

最初に定期的なイベント時に、大多数の現状満足派の公園利用者から、積極的参加のリピーター層、受動的なイベントのみの一般参加層、どちらでもないが最小限の協力はしても良いという層を把握調査するためのインタビュープログラムワークショップを導入する。

① イベントワークショップで気づきのキッカケづくり：最初は既存イベントの中で楽しい男女や世代間の相互インタビューをワークショップゲーム形式でおこなう。インタビューワークショップのゲームプログラムは小中学校や企業研修、婚活などでも使われている。「楽しい」「面白い」動機づけをおこなう。

② 人物発見を引き出す食交流パーティ：より個性的な人材を見つけるために、BBQなどの食イベントやレクリエーション・スポーツゲームイベントを行う。カラオケや木登りも導入手法として検討する。必ず、「美味しい」「感動する」を仕切る人材、指導人材、支援人材が浮かび上がる。

例：地産地消BBQ大会。例：地産地消芋煮会。例：湖岸一周竹馬駅伝大会。例：湖岸一周クイズラリー。例：湖岸一周俳句ラリー。例：湖上竹筏競争。例：カヌーで中の島探検。例：松林探鳥会。例：松林写真展示会。

③ 動機づけの体験会：1次、2次、3次産業などの職業スキルのある人材を見出すための実践プログラムを講師提供で「達成感がある」「勉強になる」動機づけを行う。

例：消防団のレスキュー実践講習会。例：丸太切り講習会。例：竹でハウス実物大模型作り。例：湖上音楽会。例：湖上アート展示会。例：湖上噴水実験。

④ 実証実験事業の導入：絞り込む各人材に適した、公園管理運営・リニューアル整備参加プログラムの大小社会実験イベントを行い、参加の可能性を確認する。そこから「仲間を誘う」「イベントなら手伝う」「スキルを試したい」「道具、機械、畑を貸す、寄付する」への動機づけを育てる。

表 6-4-1 整備参加のステップアップイメージ

対象層	ねらい	ステップアップイメージ
リピーター層	公園管理運営の人材化	1. 既存の定期的なイベントでインタビューワークショップゲームを導入する。 2. 楽しい交流イベント参加で動機づけをする。 3. 消防団レスキュー体験セミナーなど学習会を開催。 4. 花植えや公園改修整備をイベントで実践体験。 5. 定期的な参加を促すプログラムで可能な協力支援を引き出す。
一般参加層	公園利用ニーズのモニター化	
協力可能な層	利用者の危機へのサポート	

6-4-2. 大学等との連携について

大学は、地域に研究テーマか、教育テーマかで関わり方が異なる。指導教官次第になる部分も多い。学生は学習スタンスや卒論、大学院の研究テーマで、回数や関与するテーマ、場面が変わる。そこで、イベント等で企画力を引き出すことが妥当と思われる。公園と関わるテーマや回数頻度、人数などの協議が必要になる。公園整備での関わりでは既存或いは計画中の調査やイベント、整備、育成、活用などでのプログラム参加などが想定される。

大学の参加では、最小限の交通宿泊などの移動費用や研究、教育費用の確保が課題になる。労務対価としてみるか、体験参加費としてみるかなどで違いが生じる。

大学の専門性は地域の産官学民の参加の触媒的な効果を引き出す。大学の参加は、地域の管理者や利用者有志、地元企業・団体、コンサルタントとの参加協働作業を前提に次の活動が想定される。

表 6-4-2 大学等との連携の可能性

調査・指導項目	内容	大学等
① 造園的な樹木や植物の調査指導	・松林や公園の造園的な学術調査の結果を受けて、さらに必要な調査をおこなう	・大学の造園実習講義での学習現場としての活用
② ヨシやガマなどの駆除、間引き等に関する調査指導	・ヨシやガマの根茎調査、密度調査、景観調査、素材の再利用調査、間引きと繁殖抑制の造園工法調査	・全国事例での比較研究としての対応 ・里型管理手法の研究
③ 大賀ハスの培養・繁殖、育成に関する調査指導	・バイオ農業的な繁殖研究 ・野外での自然培養実験研究	・バイオ農業的な繁殖研究は大学の他農業高校でも実施可能
④ 大池の水流水質改善に関する調査指導	・水流をソーラや風力エネルギーで起こす	・大池を大学の生物学的な水質改善実験対象地に提案。専門研究者が大池の浄化を指導
⑤ 現地でのソーラや水車に寄る水流実験ワークショップ指導	・踏み車など伝統的農業設備による実験的な設置検証 ・水質を生物的なバイオ手法で改善	・地元農家、土木企業 ・水質改善企業の協力
⑥ 意匠デザインでの模型等での検討ワークショップ指導	・大池公園造成改善デザイン ・水辺の建築空間デザイン	・大学造園景観デザイン研究室 ・大学の建築的・景観的研究室 ・地元造園会社、コンサルタント
⑦ 現地での植栽や配植見直し、移植等の景観実験ワークショップの指導	・現地での実物大竹シミュレーションで実証実験的見直し検討会	・大学、コンサルタント ・運営管理団体及びサポーター ・地元造園会社
⑧ 現地での等身大のインスタレーションづくりワークショップ指導	・新たに整備するものの現地検討会	・大学、コンサルタント ・運営管理団体及びサポーター ・地元企業
⑨ 現地での公園管理に関する実技ワークショップ指導	・公園管理メニューと管理しやすい公園改修への実証試験	・大学の造園実習講義での学習現場としての活用 ・運営管理団体及びサポーター
⑩ 現地での食交流・イベント等での研究発表	・公園活用と新たな利用者を誘致しやすい公園改修への実証試験	・大学や農業高校の農業実習講義の現場としての活用 ・運営管理団体及びサポーター

発行者／矢吹町

(お問い合わせ先)

矢吹町 都市整備課

〒969-0236 福島県西白河郡矢吹町一本木 101

電話：0248-42-1111 (代表)

0248-42-2116 (都市整備課 直通)